

## be動詞について

□ Iの意味…「**私は**」「**ぼくは**」「**おれは**」など

※Iは1番前だけでなく、2番目以降でも大文字で書く

□ youの意味…「**あなたは**」「**君は**」「**おまえは**」など

□ am・are・isをbe動詞と言い、「です」という意味を表わす。

□ be動詞は、ふつう、主語のすぐ後ろに書き、主語によって次のように使い分ける。

主語	be動詞	～.
I	am	
You・複数形	are	
I・You・複数形以外	is	

□ I'm … Iとamを1単語で表わした形(2つの単語を1単語にしたものを短縮形と言う)

□ You're…Youとareの短縮形

□ areやisがある文の疑問文(=何かをたずねる時に使う文)の作り方

主語とare、主語とisの語順をヒックリ返して、文の最後の.を?にかえる。

You are ~. → Are you ~?

This is ~. → Is this ~?

□ amやareやisがある文の否定文(=そうではないという内容を表わす時に使う文)の作り方

amやareやisのすぐ後ろにnot(=「ない」や「(ませ)ん」という意味を表わす)という単語を書く。

I am ~. → I am not ~.

You are ~. → You are not ~.

This is ~. → This is not ~.

※are notはaren't、is notはisn'tと短縮形にすることができる

□ AreやIsで始まる疑問文には、YesやNoを使って次のように答える。

Are you ~? Yes, I am. No, I am not.[No, I'm not.]

Is this ~? Yes, it is. No, it is not.[No, it isn't.]

※Is that ~? の文にも、同じように答える

ここまでは、2021年までの中1(現中3までの子ども)が、教科書(ニューホライズン)のUnit1で習っていた文法事項に近いもの(be動詞のisは、Unit2で出る)。2021年度からは、中1のUnit1の時点で、上記のbe動詞に加え、下記の一般動詞とcanについても習っています。

## 一般動詞について

□ 人や動物やものの動きや状態を表わす単語を動詞と言い、be動詞以外の動詞を一般動詞と言う。  
※日本語に訳したとき、最後のひらがなを伸ばすと「ウー」になるものが多い。また、ていねいに訳すと「～ます」になるものが多い

(例) drink 飲む(ウー)・飲みます

□ 一般動詞は、ふつう、主語のすぐ後ろに書く。

(例) I drink ~. You drink ~.

□ 一般動詞がある文の疑問文の作り方

主語と一般動詞の前にかくれているdoの語順をヒックリ返して、文の最後の.を?にかえる。

You (do) drink tea. → Do you drink tea?

□ 一般動詞がある文の否定文の作り方

一般動詞の前にかくれているdoのすぐ後ろにnotという単語を書く。

I (do) drink ~. → I do not drink ~.

You (do) drink ~. → You do not drink ~.

※do notはdon'tと短縮形にすることができる

Doで始まる疑問文には、YesやNoを使って次のように答える。

Do you ~? Yes, I do. No, I do not.[No, I don't.]

## canについて

動詞の前に書いて、動詞を助ける単語を助動詞と言う。

※動詞が表す内容を広げ、疑問文や否定文を作る

canの意味…「できる」。ふつうは、ていねいに「できます」と訳す。

助動詞の多くは、主語によって変化しない。

I can see ~. You can see ~. He can see ~.

※He…男の人を表わす代名詞で、「彼は」と訳す

canがある文の疑問文の作り方

主語とcanの語順をヒックリ返して、文の最後の . を ? にかえる。

You can see ~. → Can you see ~?

canがある文の否定文の作り方

canのすぐ後ろにnotという単語を書く。

I can see ~. → I can not see ~.

※can notはcan't (つづりに注意)、またはcannotと短縮形にすることができる

canで始まる文には、YesやNoを使って次のように答える。

Can you ~? Yes, I can. No, I can not.[No, I can't. No, I cannot.]